

日本医学哲学・倫理学会 公開講座

終末期における治療の差し控えや 中止とその倫理的問題

ーよい死を迎えるためにー

本公開講座は 一般市民の皆様と日頃臨床の場で悩みを抱える医療者の皆様とが 終末期医療における治療の差し控えと中止における問題を考える会です いっしょにより死の迎え方を考えませんか？

2015年1月24日(土) 13:30-16:30
フクラシア浜松町(入場無料)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-22-5
浜松町センタービル6階 (旧住友生命浜松町ビル)

※ 会場のエレベーターが狭いので
時間に余裕をもってご来場ください

荒川迪生 (荒川医院副院長・医師)

「医学的観点から見た終末期医療における治療・延命措置の
不開始・中止における問題・課題と患者の意思決定」

小迫富美恵 (横浜市立市民病院・がん看護専門看護師)

「終末期の治療の差し控えや中止に関する患者・家族
の意思、看護師の苦悩」

山口育子 (NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)

「患者・家族からの電話相談を通して見えてくる終末期
における治療の差し控えや中止の問題点」

板井孝彦郎 (宮崎大学教授 哲学・倫理学)

「倫理コンサルテーションの観点から見た終末期の治療
の差し控えや中止に関する問題」

司会:勝山貴美子 (横浜市立大学教授)

村松聡 (早稲田大学教授 特定発言者)

- ・JR[浜松町]駅から徒歩1分1・都営大江戸線[大門]駅から徒歩2分
- ・東京モノレール[浜松町]駅から徒歩2分



http://www.fukuracia-hamamatsucho.jp/pdf/hama_matu_map.pdf

公開講座事務局:横浜市立大学(勝山研究室)

045-787-2750(ダイヤルイン)

045-787-2511(代表)内線 4750

katuyama@yokohama-cu.ac.jp

*本公開講座は平成26年度 科学研究費助成事業
(科学研究費補助金)の助成をうけて行われます

公開講座開催にあたって

ご自身や家族の終末期を、どのように迎えたいと思いますか？

近年の医学の進歩にともなって、多くの患者さんの命が救われるようになった一方で、延命治療の是非が問題になることも多くなりました。患者さんの意思を尊重しつつ、延命だけでなく生活の質（QOL）をも考慮した選択が必要ですが、難しいことも多く、特に延命治療の差し控えや中止の判断は困難です。

国や関係団体は、この状況に際しガイドラインを作成していますが、これだけでは十分とはいえません。また、そのような臨床の場で終末期の治療の差し控えに関わる医療者も負担を感じることもありますが、それを語る場は限られています。

本公開講座は、一般市民の皆様と日頃臨床の場で悩みを抱える医療者の皆様と終末期医療における治療の差し控えと中止における問題を考える会です。

いっしょによい死の迎え方を考えませんか？

講師紹介

荒川 廸生（荒川医院副院長・医師）

「医学的観点から見た終末期医療における治療・延命措置の不開始・中止における問題・課題と患者の意思決定」

岐阜リビング・ウィルのあり方を考える会、会長。安楽死・尊厳死をめぐる終末期医療の昏迷について、医師の立場からその問題と課題を提議する。

小迫 富美恵（横浜市立市民病院・がん看護専門看護師）

「終末期の治療の差し控えや中止に関する患者・家族の意思、看護師の苦悩」

1997年から横浜市立市民病院 がん看護専門看護師。現在、オンコロジー担当課長。臨床現場において終末期の治療の差し控えや中止に関する意思決定に際しての患者・家族の迷いにかかわる看護師の苦悩を通して、問題と課題を提議する。

山口 育子（NPOささえあい医療人権センターCOML理事長）

「患者・家族からの電話相談を通して見えてくる、終末期における治療の差し控えや中止の問題点」

一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」。そんな自覚を持った「賢い患者になりましょう」を合言葉に、1990年9月に活動をスタートし、患者が自立・成熟し、主体的に医療参加することを目指すCOML理事長。電話相談などで寄せられる相談などをもとに、終末期の医療のあり方について一般市民の立場から問題と課題を提議する。

板井 孝彦（宮崎大学医学部教授 哲学・倫理学）

「倫理コンサルテーションの観点から見た終末期の治療の差し控えや中止に関する問題」

宮崎大学 医学部 社会医学講座 生命・医療倫理学分野教授。附属病院倫理委員会委員長、および臨床倫理部部長を併任し、倫理コンサルテーション業務に携わる中、ドクターヘリ等で緊急搬送された患者さんの「延命治療の差し控え・中止」等に関する倫理的助言を行っている。